

1、活動スケジュール

- ① 講師から「ねらい」「活動の組み立て」「設定する予定の環境の意図」を聞く。
- ② 子どもたちがホールに集まる。
- ③ 講師と始まりの挨拶をする。
- ④ 講師の話聞く。
- ⑤ 講師と一緒に活動を楽しむ。
- ⑥ 講師が、次の活動の物的環境の準備をする。
- ⑦ 新しい物的環境に取り組む。
- ⑧ 最後の振り返りの話を聞く。
- ⑨ 講師と終わりの挨拶をする。

2、〈活動の内容〉

- ・いろいろな体を動かす。

〈活動のために準備した素材や道具、環境の設定〉

道具・・・お手玉、マット、マーカーコーン、フラットマーカー、椅子につないでいるロングゴム、ロングマット

3、〈活動の様子〉

体操講師	担任及び子どもの姿
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師がお手玉を上投げては頭にポンと当たるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホールに入ると同時に講師のやっていることを見て、釘付けになる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・始まりの挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんと立つように担任が促す。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手玉に戻り、頭に3つ当たったら立つ。一つでも落ちたら座ったまま。という遊びを始める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手玉をよく見て、どういう動きをすればよいのか考えて楽しんでいる。間違えても続けて楽しんでいる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーカーコーン、フラットマーカーを置きながら、「いろんな色があるね」と言う。</li> <li>・「赤い食べ物って何があったかな？」と講師が言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師が散らばしているマーカーコーン、フラットマーカーの色を口々に「赤、緑、黄色、青、、」等、言う。</li> <li>・「パプリカ、イチゴ、トマト、、、」</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・並べたフラットマーカーやロングゴム、ロングマットなどの使い方を伝え、ぶつからない配慮として「忍者走りで行くよ」と声を掛け、講師も一緒にホールを巡回し始める。笛が鳴る。止まる、小走りするを笛をよく聞いて繰り返す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーカーコーンをよけて小走り又は歩いて通り抜ける。</li> <li>・床は池、フラットマーカーは石と見立て、池に落ちないように石を渡っていくイメージで通り抜ける動きをする。</li> <li>・マット・・・膝立て歩きをして、最後に手を伸ばしてボタンと倒れる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・終わりの挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興奮が冷めないのか「ありがとうございました」が揃わない。最後は揃って「ありがとうございました」を言い、落ち着いて退出した。</li> </ul>

#### 4, 振り返り

- ・講師がお手玉を魅力的に扱っており、興味付けをしている。これからする活動への期待感を高めていることが分かった。
- ・講師がやっていることを良く見ていないと行動できないことや、面白いことをしているので子どもたちの集中力が高まっていくことを感じた。
- ・フラットマーカー、マーカーコーン、ロングゴムを設置しながら、「いろんな色があるね」と色の認識もさせている。
- ・物的環境を置くことによって、よく見て「判断する」体を「よける、踏む、くぐる」と使い分けるといえるように遊びの要素で様々な動きを引き出している。
- ・最後のマットは、膝立て歩きをして、最後に手を伸ばしてボタンと倒れる。転んだ時に手が出ない子が今は多い、手が出るためにこの活動を導入しているとのことを、活動を始める前に聞いていたので、この活動の意図を理解した。
- ・講師と本日の活動の「ねらい」と、使用する物的環境の意図を担当が把握しておく必要があると感じた。それを知ることにより、子どもたちの反応や、気付きなどを把握することができる。
- ・担任も子どもたちと一緒に楽しむことで、子どもたちの楽しさがどこにあるか、難しさがどこなのか、物の認知度などにも余裕をもって気付くことができた。
- ・体操は講師が主導して行うが、本園の遊びを通して体と心を育てるといえる教育方針と共有しているので、子どもたちが発達に合ったいろいろな体の動きを楽しみながら習得していることが分かる。

